

内科

腸管スピロヘータ症について

近年広く知られるようになってきた消化管の感染症に、腸管スピロヘータ症があります。原因となるブラキスピラ・ピロシコリ菌の診断は、ポリープの切除検体や組織生検などの顕微鏡検査で、大腸上皮表面に毛羽立ち状に付着した特徴ある菌塊として確認されます。梅毒の原因であるトレポネマ菌もスピロヘータの一種ですが、

この菌とは別のものです。ヒトの他、イヌ、ブタ、トリなどにも感染が起こります。感染経路は井戸水、加熱不十分な肉などの経口感染が考えられますが、不明な場合も多くあります。内視鏡像に特徴的な所見はなく、感染しても多くは無症状ですが、長期の下痢症状患者の大腸内視鏡での生検で診断された例もあります。抗菌

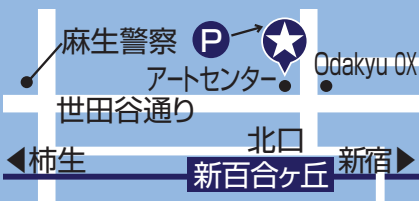
薬のメトロニダゾールが除菌に有効で、慢性の下痢が改善する例もあるため、原因不明の長期下痢の場合にはこの菌の感染を念頭に置いた対応が必要です。



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>